

解答

- 問一 ア じょじょ イ きが ウ はつき エ ぼうけん オ かんだか〔い〕
カ なが〔め〕 キ てんさく ク さび〔しき〕 ケ はくりよく
コ ほこ〔らしく〕
- 問二 ① 非常 ② 陰 ③ 舌 ④ 載〔って〕 ⑤ 薄〔い〕
⑥ 予想 ⑦ 設定 ⑧ 沈〔み〕 ⑨ 迷路 ⑩ 抵抗
父は、誕生
- 問三 ● 父の、いつにない真剣なまなざし
● 「新田二郎」と目の前で書いた父
- 問四 ● 突然の「父の死」という言葉
私に自信をもたせ、言葉の遅れを回復させる（こと）。
毎年一回、デパートの大食堂で家族にお腹いっぱい好きなものを食べさせること。
- 問五 a ウ b イ c エ d ア
- 問六 D
- 問七 ア
- 問八 自己表現の
- 問九 7 エ 8 ア 9 イ
- 問十 ● 書斎で父を独占できる（から）。
● 父との間に大きな秘密ができた（から）。
悪いところを早く
- 問十一 エ
- 問十二 句読点が少ないこと。
- 問十三 イ
- 問十四 ウ
- 問十五 書きたい気持ちが強まると共に読書量が増えていったということ。
- 問十六
- 問十七
- 問十八

解説

- 問五 「父からの多くの言葉がけによって、私がそれなりに反応を示し」（父が）ほめる・・・の繰り返しによりチャキに自信をもたせること、それが（言葉の遅れの）回復の唯一の方法だと父は信じて疑わなかったようだ。」とあります。
- 問十六 「書くことに多少の自信が生まれ始めていた」と共に、「父のおびただしい作品を読むようになっていった」ということが述べられています。